

令和6年度第5回南箕輪村持続可能な自治会検討委員会会議次第

令和7年1月21日（火）
午後7時から 役場講堂

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 検討補助委員からの意見共有【会議資料1】
4. ガイドラインについて【会議資料2】
5. その他
6. 閉 会

第4回持続可能な自治会検討委員会検討補助委員 意見共有

①集金するお金の性質を見極めるべきでは？

→善意による募金（赤い羽根、緑の募金）と、村で暮らしていればどこかで必ずお世話になる社協や日赤といった団体への協力金はそもそも支払いの性質が異なると考えます。前者は本来集金をしてはいけないのではないかと？他方で後者は協力金なのだから一定の支払いに対する責任があるのでは？

→募金についても、村として集金する責任があるのであれば、これは協力できる人にはしてもらい、拒否する人からは集金できないと考えたほうが良いと思います。

→安協については、免許更新時に加入をすすめられるものの断ることができます。性質としては募金と同じではと考えます。

②集金方法

→項目チェック方式で、払うもの払わないものを選択できる方式にしたらという意見がありました。上記①を考慮しますと、一定の支払い責任のあるもの（社協・日赤）については、支払ってもらわないと困るものとして、拒絶の場合には手続きをしてもらうのが順当ではないかと考えます。

→募金については、支払う意思がある人に支払ってもらい、払いたくない人は払わずに済むようにすべきと考えます。

会議の中で「集金能力」という表現がありました。集金作業を担当する現場の区長さん、組長さんについてはまさにこのとおりの感覚なのだと思いますが、他方でやはり「善意による募金を一括集金してよいものか」を考えますと、ここは年度当初の項目チェックで振り分けてしまった方が良いのではと思います。

→上記2点を踏まえ、「拒絶するには手続きが必要となる協力金のチェック表」と「善意の募金に賛同する意思があるかないかのチェック表」の2つを用意しサイト上で集計し、電子決済、振込用紙、役場窓口（または各団体窓口）で支払う、などの支払い方法を用意することで、これらの集金作業は自治会の負担にはならなくなるのではと考えます。

自宅にスマホやPCがないという方のために、各地区公民館に専用の簡易端末を用意する必要がある出てくるかもしれません。

③ガイドラインについて

→ガイドラインが紙媒体である、という前提だとどんなに見やすく使いやすくと考えても、限界があると思います。各地区の専用PCにガイドラインを入れ、ワード検索で知りたいことがすぐに見られるようにすべきではないでしょうか。取扱説明書や困った時のQ&Aは現在、多くが電子化されて情報にたどり着くことが簡単になっています。

→時代背景などを考慮し…という部分も、日々変わります。紙媒体だと、下手をすれば毎年更新をかけて印刷しなおす必要が出てくるかもしれませんが、サイトにしておけばすぐに直せます。ガイドラインが区の加入や脱退、トラブルを中心に扱うものであれば、非常時や災害に出番が来るとは思えません。電子媒体にして、知りたいことがすぐに知れるようにすべきではないかと思っています。

私が区の役員をやっていたころ、組長さんが負担を感じている業務に村報の戸別配布と、寄付金・協力金の戸別集金がありました。

村報の配布は改善され、自治会から切り離されました。

持続可能な自治会を検討するのであれば、集金も改善されるべきです。自治会から切り離すことが本来だと思います。

現状を維持したいのであれば、少なくとも団体の代表なり責任者なりが、区長会に出席して、現状を説明し、協力をお願いして、理解を得るべきです。村報に紙1枚をはさんでおしまい は現実にはそぐわないし、この検討会ではありえないと思います。

①他団体依頼業務の見直しについて

私の組では、年度はじめの区費の集金と同時に他団体の集金も合わせて行っており、組長が提出時期まで預かる形となっていました。

なので、今までは払うのが当然かのような仕組みでした。

現状、区未加入者は案内だけなのでそちらに統一した方が不公平感が無くなり、集金の手間も省けるので良いと思います。

振り込みやPayPay 支払いを導入したらいかがでしょうか？

②自治会の目的について

特に意見はありません。

③ガイドラインの記載内容について

重要課題と提案が分かりやすくまとめて有り、有り難い資料だった。

住民の方の意識変化のきっかけになってくれるのではないかと思います。

中でも、組の世帯数の現状に関して、私の組では高齢夫婦の世帯が多いので複数の組で役割を担うという形を是非試してみたいと思いました。

このように、すぐ採用して欲しい案がいくつかあるので、住民がその意見を伝える場や仕組みを作って欲しい。(総会などで意見する事はとてもハードルが高い)

ガイドラインの最後のページに全体や各区への意見提出する QR コードを作成するのはいかがでしょうか？

④その他

最近、共働き子育て世帯で組に加入していないという話を聞きました。

その家庭はサービス業で土日出勤。休日に作業が有っても出席出来ないとの事でした。

確かにその状況では作業等が生活の負担になり、入るのを躊躇すると思います。

現代では会社でも育休取得が当たり前ですが、地区の役回りにはこのような制度は有りません。

是非、子育て世帯でも参加しやすい仕組みを取り入れて欲しいです。

＜完成イメージ＞

仮タイトル

持続可能な自治会の 運営を目指して

～自治会運営のことで悩んだら～

はじめに

南箕輪村には、自治会と呼ばれる組織が12区あります。自治会とは、同じ地域に住む住民が自主的に組織・運営する団体です。防災・防犯活動、環境美化、地域行事の運営などを通じて、**の自助・共助により人と人とのつながりを深め**、地域の課題解決や住みやすい地域をつくるための活動を行っています。また、行政と住民をつなぐパイプ役としても機能しています。役場が実施する社会基盤の整備や福祉施策を充実させても、それだけでは地域に住む人々のつながりは生まれません。コミュニティに参加することで人と人との触れ合いが生まれ、支え合い、助け合う心が育ちます。

私たちが生活するうえで、「自助・共助・公助」の3つが重要です。

特に災害などの緊急時には、公的支援がすぐに届かないため、自助と共助の力が不可欠です。平成26年に長野県北部で発生した長野県神城断層地震では、家屋の倒壊や土砂崩れなどの大きな被害があったにもかかわらず、近所の住民たちの助け合いにより一人の犠牲者も出ませんでした。これは、日頃から地域コミュニティを大事にし、住民同士の交流や絆で、誰がどこにいるか把握できていたことや、防災訓練の積み重ねがあったからこそその結果です。行政による支援だけでなく、地域コミュニティによる共助が大きな役割を果たしており、日頃からの地域のつながりが、災害時の助け合いにつながります。

また、侵入窃盗犯を対象とした調査では、犯行をあきらめた理由の約6割が「声をかけられたから」と回答しています。住民同士が顔なじみで、近所づきあいが盛んな地域は、不審な人に気づきやすく、犯罪が起きにくい安全で安心なまちといえます。

現代社会は、働き方や生活スタイルが多様化しています。そのような時代に、**住民私たち**がいつまでも安全・安心に暮らすためには「自助・共助・公助」が相互に補完し合うことが重要です。個人では解決できないことや行政の手が届かないことを、同じ地域に住む住民同士が力を合わせて、より住みやすい豊かな地域づくりを進めていくことが大切です。

目次

1. 未加入世帯の増加

- Q1-1 / 区加入のメリットは・・・・・・・・・・・・・・・・P1
- Q1-2 / 区加入への声かけ方法は・・・・・・・・・・・・P2

2. 役員のなり手不足

- Q2-1 / 区長の仕事が多くて大変・・・・・・・・・・・・P3
- Q2-2 / 区長の選任方法は・・・・・・・・・・・・・・P4
- Q2-3 / 区や組の役員が大変・・・・・・・・・・・・・・P5
- Q2-4 / 行事・イベントの企画や準備、片付けが大変・・・・・P5
- Q2-5 / 女性や若い世代も役員を・・・・・・・・・・・・P6

3. 加入金・区費

- Q3-1 / 加入金を徴収する区の目的は・・・・・・・・・・・・P7
- Q3-2 / 区費が高いが、使い道は 区費の負担が重い・・・・・・・・P8
- Q3-3 / 未加入者との不公平感の解消・・・・・・・・・・・・P9

4. 区民の高齢化

- Q4-1 / 高齢者が区を抜けてしまう・・・・・・・・・・・・P10

5. 区の行事・イベント

- Q5-1 / 清掃活動が大変・・・・・・・・・・・・・・P12
- Q5-2 / 活動に参加してもらいたい・・・・・・・・・・・・P13

6. 区の運営

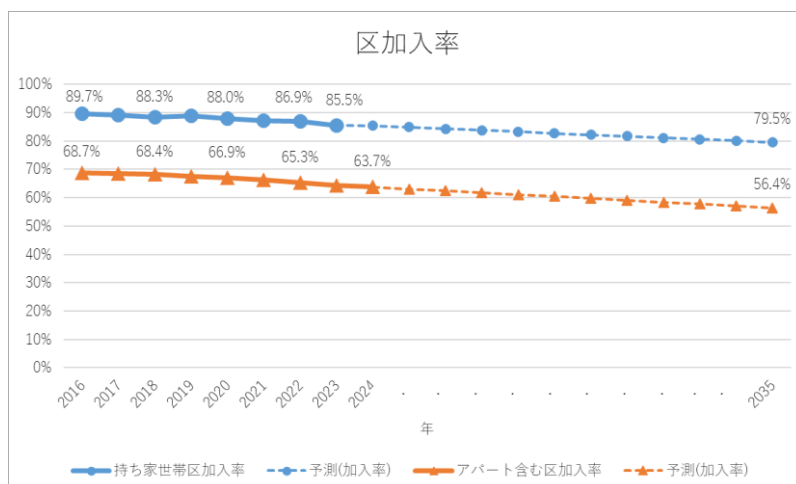
- Q6-1 / 運営をスピーディーにしたい・・・・・・・・・・・・P14
- Q6-2 / 区の活動を区民に伝えたい・・・・・・・・・・・・P15
- Q6-3 / 葬儀の時のお見送りや香典などの冠婚葬祭の対応が大変・・・・・P15

7. 区の認知度の低下

- Q7-1 / 区を知ってもらいたい・・・・・・・・・・・・P16

8. 組の世帯数の減少

- Q8-1 / 役がすぐまわってきてしまう・・・・・・・・・・・・P17



＜グラフ1：区加入率＞

背景

3世代同居、農家中心だった時代が過ぎ、現代社会においては核家族化が進行し、高齢者のみの世帯も増えています。地域への関心や組織への帰属意識も低下傾向です。自治会についてよく分からない人も増えています。そのような背景の中、グラフ1が示すとおり、持ち家世帯の区加入率は2016年は89.7%でしたが、2023年には85.5%と徐々に低下しており、このペースで進むと2035年には79.5%になると予測されます。

Q1-1／区加入のメリットは

◎住民同士が顔なじみになることで、不審な人に気づきやすくなり、犯罪の予防につながります。

◎災害時に誰がどこに住んでいるか把握できるので、素早く助け合うことができます。

◎協力して区の清掃などの環境美化することで、気持ちよく生活できます。

◎協力して除雪を行うことで、一人ひとりの負担が軽減されます。

◎区に入り子どもの顔を知ってもらうことで、地域の方が見守ってくれます。

◎一人暮らしの高齢者などの異変に気付くことができます。

◎地域の方からいろいろ教えてもらえ、豊かな人間関係が構築できます。

◎より住みやすい地域にするためのアイデアを自治会に伝え、活かしてもらうことができます。

◎区に入り地域の人と関わりを持つことで、フレイル※予防につながります。
※フレイルとは…年齢に伴い筋力や心身の活力が低下した状態のことをいいます。

提案

区に入るメリットは人によって様々な捉え方があります。日常では、人と人とのつながりができるなどメリットがありますが、誰もが感じるメリットは非日常の場面が多いのではないのでしょうか。例えば、災害時や防犯面、除雪での助け合い、高齢者の見守り等が挙げられます。

そのため、区に入るメリットを伝える際は、近年は闇バイトなど地方犯罪が発生していることもあり、非日常のメリットを中心に伝えてみてはどうでしょうか。

Q1-2／区加入への声かけ方法は

◎説明するための案内セットを作成してみても良いでしょう。

（例：区の必要性、メリット、区費・組費、年間行事、活動写真など）

村からのサポート：村で作成した暮らしのテキスト（パンフレット）を活用できます。

◎夏祭りなどの誰でも参加できるイベントを開催し、で区の雰囲気を知ってもらい、区への加入を勧めてみてはどうでしょう。

~~（例：カラオケ大会、フリーマーケット、スポーツ交流、お料理教室など）~~

→P13「区の行事・イベント」Q5-2 も参考にしてください。

＜事例＞・北殿区では、納涼祭で加入世帯に景品の引換券を配布しています。

・神子柴区では、夏祭りに加入世帯に福引券を配布しています。

・南原区では、公民館で子ども用品を中心にリユース会を開催しました。

＜区加入者からの声＞

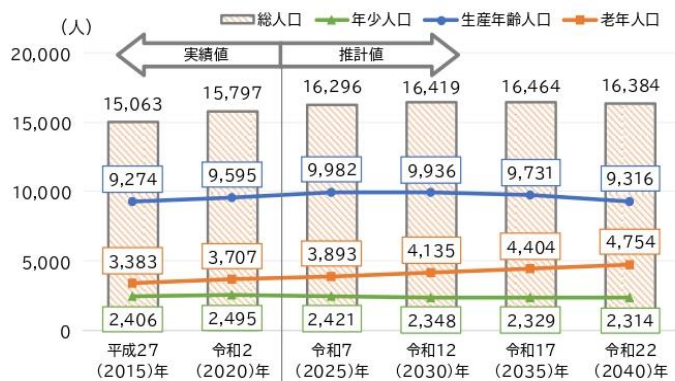
イベントや係活動を通じて地域の方との関わりが増え、交流の大切さを感じました。

提案

区に加入するきっかけは、転入時の役員による説明のほかに行事やイベントへの参加、知り合いからの声かけなどが考えられます。

説明にあたって、資料を提供することは欠かせません。村では12地区それぞれのパンフレットを、区加入者からの声もまとめて作っています。無償ですので、ぜひ活用してください。

区独自で、夏祭りや納涼祭の福引券や引換券を用意したり、~~例えばカラオケ大会、お料理教室、スポーツ交流やリユース会を開催したりと、~~多くの方が行事やイベントに触れるきっかけをつくっていく視点も大切ではないでしょうか。



年少人口割合	16.0%	15.8%	14.9%	14.3%	14.1%	14.1%
生産年齢人口割合	61.6%	60.7%	61.3%	60.5%	59.1%	56.9%
老年人口割合	22.5%	23.5%	23.9%	25.2%	26.7%	29.0%

出典:実績値／総務省「国勢調査」、推計値／国立社会保障・人口問題研究所による推計(令和 5(2023)年度版)

＜グラフ2：人口構成の将来予測＞

背景

現在村では、人口約 16,000 人のうち、村外からの転入者の割合が 73%を占めています。また、30 代から 50 代の働き世代、子育て世代の割合が高くなっています。

65 歳になってからも、元気に働いたり、意欲的に活動している高齢者も増加しています。グラフ 2 が示すとおり、高齢化率は 2020 年では 23.5%ですが、2035 年には 26.7%まで上昇すると予測されます。

Q2-1／区長の仕事が多くて大変

◎事務を行う事務員を雇ってみてはどうでしょう。

◎仕事の内容を見直して、区長だけが負担しないように考えてみてはどうでしょう。

◎区長の報酬を、仕事に見合った適正な額に見直してみてはどうでしょう。

◎引継ぎマニュアルを作ってみてはどうでしょう。

＜事例＞・田畑区では、資料作りなどを行う事務員を有償で雇用しています。

村からのサポート：集落支援員[※]制度を活用し、事務員の報酬 1 名分を村が負担できます。

※集落支援員とは…自治会の活動を支援するために、区の資料作成や運営の手伝いなど、区のサポートをする人です。詳細は地域づくり推進課までご相談ください。

提案

区長の仕事をリスト化することで分担できる業務を洗い出し、区長の負担を軽減してみてもいいでしょうか。

また、村では令和 7 年度から区長の事務を複数年フォローする事務員（集落支援員）の報酬を、村が負担する制度を開始します。積極的にご活用ください。

Q2-2／区長の選任の方法は

◎選考組織をつくり、候補者リストを作成してみてもいいでしょうか。

◎区長の仕事を区民に公開し、誰にでもできる雰囲気作りをしてみてもいいでしょうか。
→P15「区の運営」Q6-2 も参考にしてください。

◎候補者選考の時期を早めてもいいでしょうか。

◎区をいくつかのブロックに分け、各ブロックから推薦された方の中から選任、または各ブロックの輪番制にしてみてもいいでしょうか。

◎任期を複数年にしてみてもいいでしょうか。（例：1 年目は区長見習い、2 年目は区長、3 年目は区長フォローと役割を分担してみるなど）

<事例>・田畑区では、1 年目は評議員となり区長の仕事を勉強、2 年目は区長、3 年目は再度評議員となって区長のサポートを行います。

提案

区の中にどのような人材がいるか把握できていないため、区長や役員の選出に困るという声を聞きます。そのため、選考組織をつくり候補者リストを作成することで、どのような人材がいるか把握してみてもいいでしょうか。

ただし、強制的に候補者リストに入れることは区脱退につながるため、本人の意思を尊重するようにしましょう。

また、北殿区では区会議員 8 名の選出にあたり、4 つのブロックに分けて 1 ブロック 2 名ずつ選出を依頼しています。比較的問題が起こりにくく自分たちの組がいつ頃なのかわかるため、区や組としても計画が立てやすいそうです。このやり方を区長選出にも利用してみてもいいでしょうか。

Q2-3／区や組の役員が大変

◎活動内容、活動頻度を見直してみてもうでしょう。

◎活動内容に合わせて役員の人数を減らしてみてもうでしょう。

~~◎役員の任期を半年にするなど見直してみてもうでしょう。~~

◎役員が負担になる高齢者や介護者などは、役員を免除してみてもうでしょう。

◎会議は対面を減らし、だけでなく、書面やオンラインで行ってを併用してみてもうでしょう。

◎引継ぎマニュアルを作ってみてもうでしょう。

＜負担軽減は進んでいます。＞

2024年10月から、衛生部（衛生係）の資源ごみ収集立会いと広報紙の配布は、村が実施することになり、衛生部長や組長の負担は大きく軽減しました。

また、区長に依頼する委員の見直しも行い、区長会長に依頼する委員は18→5、副区長会長に依頼する委員は5→3、すべての区長に依頼する委員は7→2と、大きく削減しました。

提案

村から依頼する業務が軽減したため、区や組の役員数を見直してみてもうでしょうか。

また、役員を依頼されたときに「仕事内容がわからないから役を引き受けたくない。」と思う方もいます。そのため、仕事内容を可視化し、引継ぎマニュアルを作成することで「この仕事なら引き受けてもいいかな。」と思う方が増えるのではないのでしょうか。

Q2-4／行事・イベントの企画や準備、片付けが大変

◎分館長を経験した人などにサポート役をお願いしてみてもうでしょう。

~~◎意欲がある人が複数年継続できる意欲のある有志の方~~にお願いする仕組みにしてみてもうでしょう。

→P13「区の行事・イベント」Q5-2も参考にしてください。

提案

行事やイベントの企画や準備は楽しい面もあり、得意な方、意欲のある方が一定数いるはず。そのような方々が希望すれば複数年継続できる有志の方々にお願いする仕組みにすれば、行事やイベントの発展や準備等の効率化、区役員の負担軽減にもつながるのではない

でしょうか。また、予算も含め、ある程度自由に実施できる環境とすることも、さらなる意欲の向上につながるのではないのでしょうか。

Q2-5／女性や若い世代も役員を

◎参加しやすい休日に会議を開催してみ
てはどうでしょう。

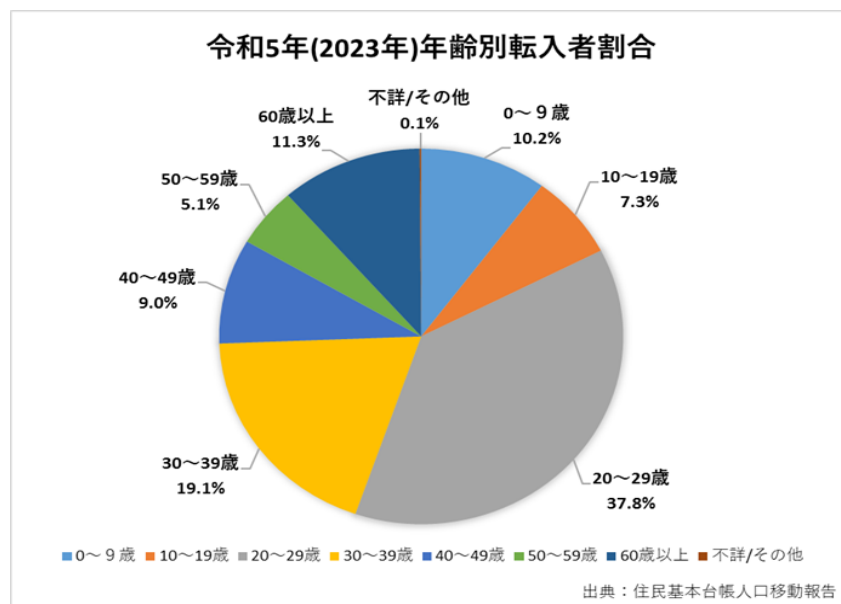
◎役員の仕事に見合った適正な報酬を支
払ってみてはどうでしょう。

◎区や組の役員の仕事、年間の担当行事の一覧、経験者の声を資料にまとめて区民に配
布してみteはどうでしょう。

→P15「区の運営」Q6-2 も参考にしてください。

提案

各区の区長に限って言えば、女性の区長は平成18年度の北殿区長のみです。区長のほか、役員を経験した方からは「やってみたら意外とできた。」「役員をすることで地域とのつながりが深くなった。」という声を聞きます。例えば災害時の避難所運営時に、女性が遠慮せずに声をあげられるよう、自主防災組織の役員を選ぶときには、女性に積極的に声をかけてみてはどうでしょうか。



<グラフ3：年齢別転入者割合>

背景

国民負担率[※]が 50%に近づいており、若い世代ほど可処分所得が減少しています。またグラフ3が示すとおり、村は20代～50代の転入者が多く、子育てや住宅ローンなどで負担を抱えている世帯が少なくありません。さらに近年の物価上昇などにより家計の負担はさらに増加しており、収入が一定の高齢者世帯も苦しい状況です。未加入者と比較した時に不公平感を感じる要素になっています。

※国民負担率とは…租税負担（国税、地方税）と社会保障負担（年金、社会保険料など）の国民所得に占める割合のことです。

Q3-1 / 加入金を徴収する区の目的は

◎加入金の目的（公民館修繕費用の積立など）を説明してみてもいいでしょう。

◎加入金の金額を見直してみてもいいでしょう。

解説

令和に入ってから、3つの区が加入金を無料にしており、現在では4つの区で加入金が無料となっています。加入金がないことで区に入りやすい環境にし、毎年の区費収入を積み重ねる方が、収入面で結果的に区にとって恩恵があるとする考え方もあるようです。

ただし、公民館建設等で多額の金銭を負担した世代との整合性を考える必要もあり、無料にすることに抵抗があることも確かです。

Q3-2／~~区費が高いが、使い道は~~ 区費の負担が重い

◎生活に困っている方には、区費・組費を減額してみてもはどうでしょう。

◎区費の使い道をわかりやすく **公正に使われていること**を広報してみてもはどうでしょう。
→P15「区の運営」Q6-2 も参考にしてください。

提案

他の区と比べて区費が高いと言われた場合には、区によって事情が違っていることを説明してみてもはどうでしょうか。

現状では、区費が一番安い区で 10,000 円、一番高い区で 24,000 円です。

村からの委託業務が減っているので、~~役員報酬などを見直し、役員数の低減による役員報酬やイベントなどを見直し~~、区費を下げることも検討してみてもはどうでしょうか。

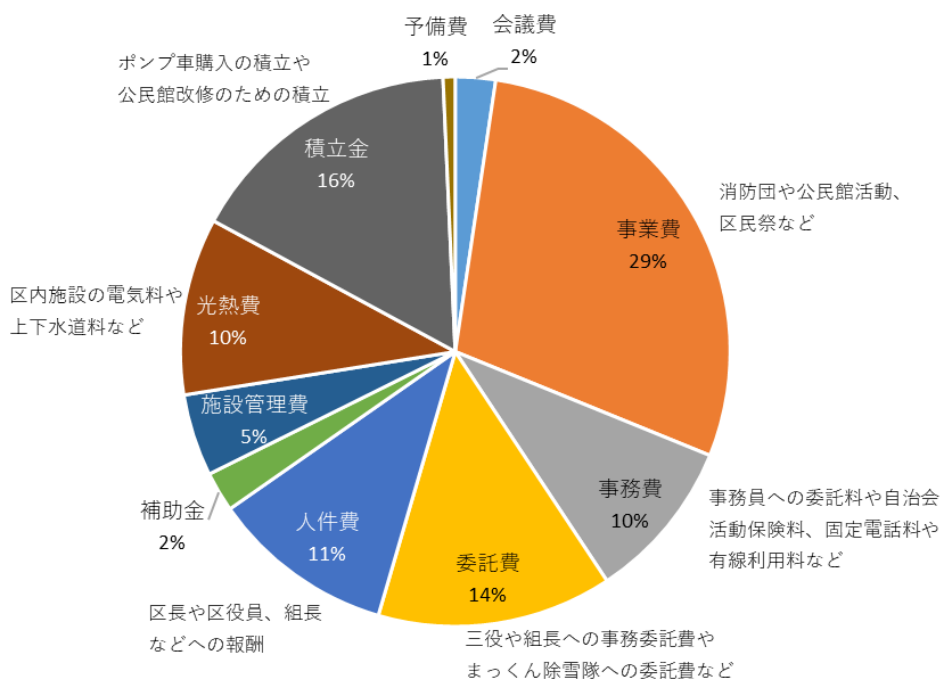
決算報告をするときには、区費の使い道がわかりやすいように、イラストやグラフを入れてみるはどうでしょうか。

たとえば…



納涼祭会場設営やゲーム景品などにも
区費が使われているよ！

区費の使い道(例)

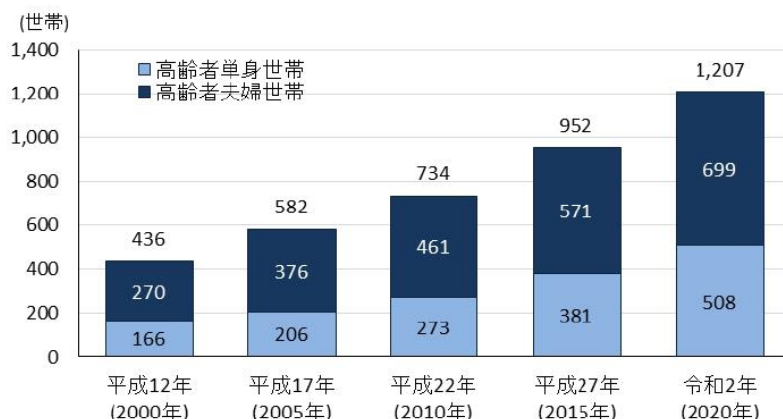


Q3-3／未加入者との不公平感の解消

◎区未加入者からも協力金を集めてみてはどうでしょう。

提案

区の未加入者も区の恩恵を全く受けていない、という訳ではありません。公民館の維持や地区の美化活動など、住民全てが関わる費用については、負担していただくのも一案です。区の口座への払込書を同封するなどして、集金の負担を減らす工夫をしてみてはどうでしょうか。



出典: 国勢調査

＜グラフ4：高齢者世帯数＞

背景

高齢化や3世代同居の減少により、高齢者のみの世帯が増加しています。

高齢者のみの世帯は、グラフ4が示すとおり、2020年には1,207世帯と20年間で3倍となりました。その割合は村全体の約5分の1を占めています。

過去には年を重ねると、子どもに役割をゆずり隠居するケースも多くありましたが、高齢者のみの世帯では、子どもが同居していないため、隠居することが難しくなっています。

一方、高齢者となる65歳になってからも、元気に働いたり、意欲的に活動したりしている方が増加しています。

Q4-1／高齢者が区を抜けてしまう

◎身体的に負担がかかる作業や役員については、年齢や体調等で免除を受けることができる隠居制度をつくってみてはどうでしょう。

◎生活が苦しい高齢者の区費を免除には減額などの優遇措置を検討してみてもうでしょう。

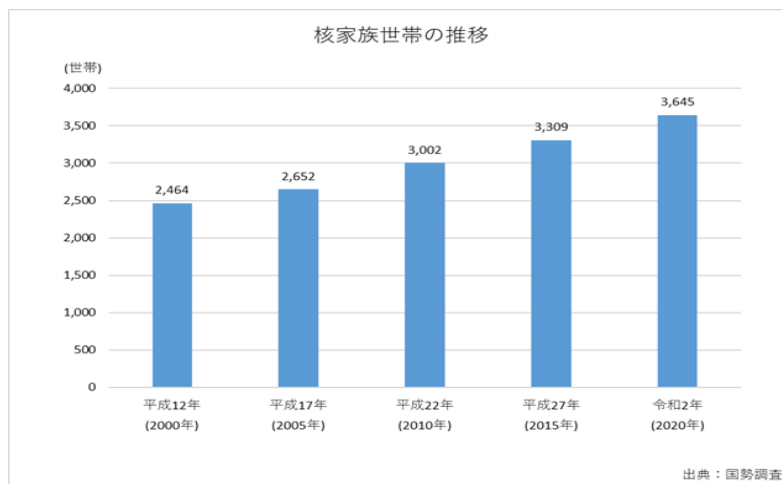
→組の世帯数が少なくなった場合の対応は、P17「組の世帯数の減少」の項目を参考にしてください。区費や組費の負担によるものは、P7「加入金・区費」の項目を参考にしてください。

提案

健康状態は人によって異なりますが、男性、女性とも70代半ばから緩やかに自立度が下がり、生活において他人の援助が必要な割合が増えていきます。健康状態が低下し、自分らしい暮らしを継続するにあたり、区に関わる大きな負担となってしまう場合には、過

去のように、隠居を公に認めることを検討してもよい時期にきているのではないのでしょうか。区を抜けてしまうことと比較すると、関係性が維持できるメリットがあります。

同時に、80代でも経験豊富で元気な方はたくさんいます。元気なうちは、積極的に区に関わっていただいてはどうでしょうか。



<グラフ5：核家族世帯の推移>

背景

核家族世帯や共働き世帯が増加し、世帯の中で時間に余裕がある人が少なくなっています。

核家族世帯は、グラフ5が示すとおり、2020年には3,645世帯と20年間で1,200世帯増加し、その割合は村全体の半分以上を超えています。

また、子育て世代は共働きも増加しており、仕事や子育てに時間を取られ、行事などに参加することが難しくなっています。

Q5-1 / 清掃活動が大変

◎村から依頼されている清掃活動以外の作業内容や回数、必要な人数を見直してみてもいいでしょう。

◎作業開始時間を遅くするなど、活動時間を見直してみてもいいでしょう。

提案

現在、村からお願いしている清掃は、春の「一斉清掃」と夏の「天竜川河川清掃・帰化植物駆除事業」の2回です。また、地区によっては秋の「一斉清掃」を独自に実施しています。

決められた開始時間に集合したら作業が終わっているケースに対して不満が寄せられることもあります。また、開始時間が早すぎるという声も少なくありません。そのため、開始時間や参加規模の見直しを考えてはどうでしょう。

Q5-2／活動に参加してもらいたい

◎今あるイベントを時代に合わせて見直したり、新しい企画を検討する中で、年齢に合わせたイベントや、年齢を問わずに参加できるイベントを開催してみてもはどうでしょう。（例：ポッチャ※など）

※ポッチャとは…ボールを投げて、ジャックボール(目標球)にいかに近づけるかを競います。性別や年齢、障がいの有無にかかわらず、誰もが一緒に楽しめる競技です。

◎自主防災会と一緒にイベントを開催してみてもどうでしょう。

◎他の区と合同でイベントを開催してみてもどうでしょう。

村からのサポート：活動に必要な用具等は村から助成を受けて購入することができます。

→区の行事やイベントの運営に関しては、P5「役員のなり手不足」Q2-4 も参考にしてください。

＜事例＞・北殿区では、地区社協でポッチャを開催したところ、参加者が多くシニア世代に好評でした。

提案

神子柴区では球技大会でポッチャを行ったところ、家族全員で大人から子どもまでとても楽しむことができたそうです。また、毎週公民館では老若男女 20 人以上が集まり、ポッチャを継続して楽しんでいます。用具は村からの助成を受けて購入しています。幅広い世代が特別な能力なく楽しめるイベントを積極的に導入してみてもどうでしょうか。



背景

区のことを決定する機関が総会しかないため、区民の要望や役員からの提案を決定するまでに時間がかかってしまいます。

また、働き方や生活スタイルが多様化しているにもかかわらず、区の運営方法や慣習は昔から変わっていません。

Q6-1 / 運営をスピーディーにしたい

◎区長と総会の間に、決定権のある組織を設けてみてはどうでしょう。

◎連絡手段として SNS を活用するなど、デジタル化を進めてみてはどうでしょう。

◎会議をオンラインで開催してみてはどうでしょう。

＜事例＞・田畑区には評議員会があり、軽微な事項は総会を待たずに決めることができます。

提案

スマートフォンやタブレットを用いて SNS を活用することで、多人数との情報交換を迅速にスムーズに行うことができます。また、情報交換した内容がテキストで残るので、後で見返し確認することができるので便利です。

オンライン会議を活用すれば、仕事や出張で遠方にいても、空いた時間で会議に参加できる機会を増やすことができます。

Q6-2／区の活動を区民に伝えたい

◎定期的（3 か月に 1 回など）に区民だよりなどのお便りを発行してみてはどうでしょう。

◎回覧もデジタル化してみてはどうでしょう。

村からのサポート：集落支援員が、デジタル化や広報活動をお手伝いします。

＜事例＞・北殿区の地区社協では、社協だよりを月 1 回発行しています。

提案

中込区では試験的に回覧のデジタル化に取り組んでいます。運用として、紙の回覧物をこれまでどおり回覧することには変わりはありませんが、回覧後もデジタル化された内容が確認できるようになるので大変便利です。また回覧物だけでなく、区の役員や規約の確認等もできるようになります。ただし、その都度回覧物をデジタル化する仕事は増えることになります。

Q6-3／葬儀の時のお見送りや香典など冠婚葬祭の対応が大変

◎本人の意思を尊重し、慣例を見直してみてはどうでしょう。

提案

普段からお付き合いがあるご近所の方や、顔見知りの方が旅立たれるのは寂しいものです。地区によっては、最後のお見送りをする風習が残っているところもあり、遺族の方もその心遣いに心が温まり慰められることがあります。しかし、人それぞれ関係性には違いがありますので、お見送りや香典などへの対応は、一人ひとりの気持ちを尊重しながら、個人の判断に任せることも大切ではないでしょうか。



背景

村では、村外からの転入者が多く、未加入世帯も増加しているため、区の活動を知る機会が減少しています。また、生活スタイルの多様化により、昔と比較すると地域のつながりが希薄化しています。

Q7-1 / 区を知ってもらいたい

~~◎地元を知るイベントを開催してみてもいいでしょう。(例：地区の歴史を知る散歩コースを作るなど)~~

~~◎世代を超えた交流の場を設けてみるはどうでしょう。(例：孫や子どもと一緒に参加できるスポーツ、しめ縄づくり、農業を教わるなど)~~

◎公民館を開放し、誰もが交流できる機会を作ってみてはどうでしょう。

村からのサポート：村では、12 地区それぞれのパンフレットを作りました。年間行事や区で活動している団体も載っていますので、ぜひご活用ください。

＜事例＞・神子柴区の「かま塾」では、高齢者(サポーター)と子どもと一緒にしめ縄作りやスポーツなどを行い、世代を超えて交流しています。

→P13「区の行事・イベント」Q5-2 も参考にしてください。

提案

地域コミュニティに関心を持ってもらうために、まずは楽しい行事を行い、足を運んでもらうことが大切です。区に加入未加入関係なく、誰でも参加できる行事を開催してみてもいいでしょうか。



背景

組の世帯数は、宅地造成地では増える傾向ですが、減少している地域もあります。

5世帯以下の組では役員を兼任するなどして対応してきましたが、高齢化の進行等により、近年は組を解散するケースも出てきています。

現在の村における組の最少世帯数は4戸、最多世帯数は49戸であり、その差は約12倍もあります。

Q8-1 / 役がすぐまわってきってしまう

◎組を再編してみてもはどうでしょう。

◎複数の組をエリアでまとめ、その中で役員を回してみてもはどうでしょう。

→P5「役員のなり手不足」Q2-3も参考にしてください。

提案

組の再編が一つの解決策ですが、これまでの関係性が変わってしまうため、上手くいかないケースも少なくありません。再編が上手くいかず、組が解散してしまうと関係性が途切れてしまいます。

そこでまずは複数の組で役割だけを合同で担ってみてはいかがでしょうか。組長はそれぞれ必要になりますが、その他の役割については合同で1人を選任するようにします。複数年経過し関係性が構築できれば、次の段階として、組を再編していく選択肢も出てくるのではないのでしょうか。

持続可能な自治会検討委員会 委員名簿

委員長	征 矢 章
委員（対面）	植 田 学
	唐 澤 正吉
	小 出 俊一
	河 野 道夫
	志 野 英男
	篠 澤 哲
	中 山 隆
	西 森 一博
	山 田 茂
	山本 ゆかり
検討補助委員	天 田 美咲
	大日方 音巴
	木 下 茂
	瀧澤 婦美恵
	三 澤 稔

（五十音順、敬称略）



◎問い合わせ先 地域づくり推進課地域振興係 0265-98-6640